

第2回 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会 会議録

■日時 令和4年8月24日（水）14時30分～16時30分

■場所 市役所14階 14A会議室（オンライン併用）

■出席者（委員名簿順，敬称略）

【委員】 大森宣暁，桂木奈巳，林光武，相澤美知子，岡地和男，駒場久
齋藤健壽，齋藤美和子，野口進，富健治，富久田三千代
<オンライン参加>五艘みどり，山根健治

※小池恵一郎委員，福田嘉男委員は所用により欠席

【事務局】 都市整備部次長，景観みどり課長，景観みどり課職員6名
(株)プレック研究所2名

■傍聴者 0名（報道機関2名）

■配付資料

次第

資料1 第1回懇談会の主な委員意見

資料2 （仮称）第3次宇都宮市緑の基本計画骨子案

資料3 緑の将来像の検討

資料4 リーディングプロジェクトの方向性

参考1 緑の目標水準の成果と分析

■ 次第

1 開会

2 報告事項

（1）前回懇談会の主な意見について

・事務局より，資料1，参考資料1に基づき説明を行った。

3 協議事項

（1）（仮称）第3次宇都宮市緑の基本計画骨子案「I計画改定にあたって」について

・事務局より，資料2に基づき，説明を行った。

（2）緑の将来像，リーディングプロジェクト案について

・事務局より，資料3，資料4に基づき，説明を行った。

4 その他

5 閉会

■発言要旨

3 協議事項	
(1) (仮称) 第3次宇都宮市緑の基本計画骨子案「I計画改定にあたって」について	
山根委員	資料2のP.54の図「ヒートアイランド現象の状況」は、2022年8月1日の瞬間的なデータということか。
事務局	おっしゃる通りである。
山根委員	今回提示いただいた2022年8月1日の一日しかデータを取得できないのか。また、一定期間の平均値で示すことは難しいのか。
事務局	他の日のデータも取得可能であるが、平均値の図を示すことは技術的に難しいため、直近の状況として2022年8月1日の瞬間的なデータを使用した。
山根委員	市の中央から西側に高い温度が分布しており、既往の調査結果とも合致していることから、ある程度の信頼性はあると思う。
岡地委員	資料2のP.57の「緑の量を減少させずに」という表現から、緑の量を増やさず、今の量を維持するという意味に読み取れるが、それで良いのか。
事務局	緑の量を今より減らさないことを前提としながら、単に量を増やすだけでなく、緑の機能が的確に発揮されるよう質を高めていくことの必要性について記載している。
岡地委員	誤解を与えてしまう表現のため、表現を整理した方がよいと思う。 また、緑の多様な機能に、癒しや健康づくりも考えられる。森でハイキングすることで、健康づくりに繋がるといったことを課題に入れ込む必要があるのではないか。資料2のP.57(2)1)①に書かれている「市民の余暇活動の充実」等に加えて、健康づくりも記載いただければと思う。
大森会長	P.57(2)は、スーパースマートシティが目指す地域経済循環社会、地域共生社会、脱炭素社会の3つの社会に対応するように書かれていると思うが、健康づくりについては地域共生社会が適切か。
事務局	健康づくりも重要と認識している。地域共生社会に関連する課題として、P.58(2)2)①に記載しているが、分かりやすくなるように善処する。
富委員	資料2のP.27の中心市街地の緑被分布図を見ると、大通り周辺の緑が極端に少ない。中心市街地の緑については、何らかの形で積極的に取り組んでいただきたい。先日、JR宇都宮駅東側の区画整理で整備された近隣公園や街区公園を見てきたが、整備されてから40年以上が経ち、施設の老朽化が進み、緑も荒れ、市民に親しまれる公園とは言いにくい状況だった。前回、緑の質を高めることが話題

	<p>になったが、中心市街地の公園については、早急な対応が必要だと思う。</p>
事務局	<p>頂いたご指摘については、P.57（2）の中に記載しているが、明確に読み取れる表現を検討させていただく。</p>
富委員	<p>現在、JR宇都宮駅周辺で再開発が進んでいるが、宇都宮市の場合、東京都、神奈川県、埼玉県と比べると、再開発における緑の整備が少ないように感じる。広場が整備されるが、点々と緑地がある程度で、面的な緑の広がりを感じられない。また、鬼怒通り等の幹線道路沿いの緑の創出も必要だと思う。</p>
富久田委員	<p>富委員のご意見に関連して、宇都宮市もしくは栃木県では、再開発や開発許可等において、具体的な数値としての緑化義務はあるのか。</p>
事務局	<p>明確な基準はない。当課としても再開発等における緑化基準については検討課題であると認識している。</p>
富委員	<p>一般的に再開発事業で厳しい緑化義務を設けていない中で、宇都宮市がどれだけ頑張れるかに尽きると思う。中心市街地の再開発はこれからも行われるので、宇都宮市として緑の担保について検討いただければと思う。</p>
大森会長	<p>具体的な施策は次回の懇談会で示していただくことになると思う。 関連するので伺うが、資料2のP.57に「都市部」という表現が出てくるが、「都市部」とは具体的にどこを指しているか。別のところでは「都心部」という表現も出てくる。</p>
事務局	<p>「都市部」は、宇都宮市の中心市街地を指している。</p>
大森会長	<p>「都市部」、「都心部」、「中心市街地」など、表現は今後検討いただければと思う。</p>
林委員	<p>P.56以降の「6. 計画改定の課題」に、ヒートアイランド現象の緩和が明確に触れられていない。P.57の「緑の活用を通じたまちの居心地の良さの向上」や、P.59の「緑の保全・創出を通じた環境負荷の低減」に関連していると思う。 P.54の「ヒートアイランド現象の状況」の図は、中心市街地の緑地によってヒートアイランド現象が緩和されていることを市民に示す際に非常に説得力のある図だと思う。市街化区域の中がほとんど高い温度分布になっている中で、二荒山神社、八幡山公園、戸祭山緑地、宇都宮大学キャンパス、中央公園では温度が低くなっている。 暑くて困っている市民にとって、ある程度まとまった緑地があることが大事であると説明する際に有効な根拠になるため、課題としてもっと書き込んでいいのではないかと考える。再開発の際にも、このような緑地を市街地に新たに創出することができれば、住みやすい宇都宮市になるという示し方もできるのではないかと考える。</p>

大森会長	<p>緑が発揮する機能として、ヒートアイランド現象の緩和が全てではないが、今あるまとまった緑地を残し、再開発の機会には創出しましょうと言う際に分かりやすいと思う。</p> <p>他にご意見がなければ次の議題に移る。</p>
<p>3 協議事項 (2) 緑の将来像, リーディングプロジェクト案について</p>	
五艘委員	<p>リーディングプロジェクトは、最終的なゴールを具体的に示すことが重要だと思う。やりたいことはたくさんあっても、結果に結び付かなければもったいない。努力義務では現状の数値は横ばいのままだと思う。そこで事務局に質問だが、これまで緑化の義務化を検討した経緯はあったのか、今後そういう検討をするのか、市としての考えを伺いたい。例えば、東京都世田谷区では300㎡を超える建築物を建てる際には、建築面積の5%を緑化しないとイケないという決まりがある。神戸市でも同様の取組がある。</p>
事務局	<p>現行の第2次宇都宮市緑の基本計画の策定検討の際に検討した経緯はあるが、実現には至っていない。今後どうすべきかについては、次回の懇談会で提示できればと思う。</p>
富委員	<p>提案いただいた基本方針に、「緑をつくる」や「緑を創出する」という視点が入っていない。先ほどの意見のとおり、緑を増やすことを今回の計画に入れるべきだと思う。</p>
大森会長	<p>第1次緑の基本計画では「つくる」と明確に書かれており、第2次緑の基本計画では、「緑の拠点の整備」と書かれている。第3次緑の基本計画でも、「つくる」や「増やす」という言葉を入れるべきというご意見だが、事務局はどう考えているか。</p>
事務局	<p>基本方針1「宇都宮市を形づくるみどりを継承する」と、基本方針2「みどりをまちの魅力につなげる」は、緑を創出することも含めた基本方針だと考えているが、そのことが分かるような表現を検討していきたい。</p>
大森会長	<p>他の委員も、「つくる」や「増やす」をはっきりと表現した方が良いと思うか。</p>
岡地委員	<p>資料4のP.1で、基本方針2についての想定する関連施策として、公園整備や施設緑化が挙げられており、緑を創出する行為であることは分かるが、それが「みどりをまちの魅力につなげる」施策であるということがよく分からない。</p>
大森会長	<p>参考資料1で、緑視率等の目標達成度の報告があつたが、まだ国の基準に到達していないことから、第3次緑の基本計画においても明確に「増やす」を入れる</p>

	べきだと思う。
富久田委員	リーディングプロジェクトとは別に、緑の基本計画の基本理念や将来像を市民に伝えていくような取組を入れなくていいのか。
事務局	資料2のP.72「IV 計画の実現に向けて」で、ご指摘の点について記載する想定である。
富久田委員	市民目線から述べると、第2次緑の基本計画はほとんど浸透していないと思う。計画自体を市民に発信することも重要だと思う。
桂木委員	市民への意識付けとして、どうして緑が必要なのかを繰り返し伝えていくことが大切だと思う。緑について自分事として捉えられるよう、端的に伝えられるものを示す必要があると思う。資料2のP.45に「緑への期待」に関する市民アンケート結果が載っているが、ここが増加すると良いと思う。緑がないと生きていけないくらいの勢いで伝えることで、緑の基本計画が浸透していくのではないかと感じた。
大森会長	緑の基本計画のどこかに「緑の意義」などの項目を追加した方が良いか。
岡地委員	市民にとって分かりやすい計画でないと、市民が理解して、協力してもらうのは難しいと思う。施策の前段に、私たちにとってこういう理由で緑が重要だということを入れた方が良い。なぜ緑が必要なのかを誰もが共通認識として持つことが重要だと思う。スーパースマートシティやSDGsの前に、人を豊かにする、癒す、生物多様性の基本となるということの基本理念に入れ込んだ方が良いかもしれない。
山根委員	基本理念に入れるのは重要だと思う。市民の皆さんにはシンプルでないと伝わりにくい。仙台市は「杜の都」と呼ばれているが、そのような分かりやすいキャッチフレーズを考えるのはどうか。宇都宮市のネットワーク型コンパクトシティやスーパースマートシティは非常に良いと思うが、どちらかに「グリーン」を入れていただければ、宇都宮市の姿勢が伝わるのではないか。「住めば愉快だ宇都宮」などの標語もあるが、「住めば緑で宇都宮」など、色々なところで強く打ち出していただければ、市民に広く伝わるのではないかと思う。
相澤委員	宇都宮市は、昔より緑に対する市民意識が向上したと思う。馬場町の足利銀行には、白楊高校の生徒が作ったプランターが4つ飾ってある。シンボルロードには、花ではなくグリーンを生けたハンギングバスケットが市役所までつながっている。かなり意識してきれいにしていると思う。これをより一層強めていくのが私たちの役目で、清掃活動している場所にグリーンを飾れば、もっと街はきれいになる。緑化については、グリーントラストの方々が保全活動を頑張っており、大

	<p>きい力だと思う。市役所の1階には「自然の緑写真コンテスト」で賞を取った方々の写真が飾ってあり、そういう取組を通じて、市民の意識付けができるようになると良いと思う。</p>
事務局	<p>事務局では、白楊高校の生徒や地域住民との協力のもと、中心市街地に緑を増やし、まちの見栄えが良くなるよう改良しながらハンギングバスケット等に取り組んでいる。このような取組を今後も続け緑を増やしていくことができればと考えている。</p>
齊藤（健）委員	<p>資料2のP.14に、近年の田川の氾濫についての記載があり、市としては田んぼダムを推奨していることが書かれている。景観的に見栄えの良い緑を増やすことも必要だが、市の中心部で洪水が起こることもあるため、上流部での洪水対策をしっかり行った方が良い。生物多様性、景観、防災等も兼ねた緑をつくることが望ましい。</p>
林委員	<p>1点目として基本方針の3つと、リーディングプロジェクトの3つの関係性がよく分からなかった。上手な説明がワンステップいると思う。</p> <p>2点目として、先ほど相澤委員が発言されたが、既に宇都宮市内では色々な取組があるので、市民と関わるリーディングプロジェクトでは、今ある良い取組を評価して、それをさらにこう発展させたいというような示し方をしたほうが良い。今まで取り組んできた人が、「ちゃんと市は分かってくれている」と思うような示し方をすると、今後も力を貸してくれるだろうし、やる気もでると思う。</p> <p>3点目として、リーディングプロジェクト1の「緑による中心市街地の魅力化」には、様々なレベルがある。「まとまった緑地の確保」という大きいレベルがあり、その次に、「散歩したくなるような木陰がある街路整備」があり、最後に「歩いて楽しいプランターやハンギングバスケットの設置」がある。</p> <p>落ち葉の問題があるのは承知の上で、散歩に適した日陰のある街路樹や並木道をどうしたら整備できるのか。その上で、プランターやハンギングバスケットがあり、地域の人が生き生きと活動していて、きれいな街並みが形成されているといった階層構造にも触れてもらえたらいいのではないかと思う。</p>
大森会長	<p>基本方針とリーディングプロジェクトについては、事務局からもう少し具体的な説明が欲しい。リーディングプロジェクトとは、時系列的に先に取り組むものという理解でよいか。</p>
事務局	<p>リーディングプロジェクトは優先的に進めるものである。市民に明確に効果を伝えるものとして進めたい。今回、具体的な施策を出す前にリーディングプロジェクトを示す展開になっているので、分かりにくくなっているのかもしれない。構成も再検討しながら、次の懇談会に向けて準備できればと思う。</p>
野口委員	<p>リーディングプロジェクト2に「公園機能の充実化」とあるが、拠点である公園</p>

の質を高めていくということは、今ある公園を何とかしようとしていると捉えたら良いのか。先ほどの林委員からあったように、緑を確保してその質を高めていくという考え方もある。また、リーディングプロジェクト3は、拠点周縁部において展開するプロジェクトとして「都市住民が自然と触れ合える空間としての農地や樹木の保全や活用」となっており、自然と触れ合える空間はぜひとも必要である。例えば、森林は、木を伐り出すための森林ではなく、レジャーに重きを置いている。心身の健康も含め、憩いの場にしたい。また、自然と触れ合える空間としての農地、樹林地の保全活用は、具体的にどう誘導していくのか。例えば、民有の平地林が伐採されて、メガソーラーの太陽光パネルが置かれたり、一部が宅地にされたり等、広い面積の樹木が無くなっているという現状がある。このようなことも含めて、樹林地の保全をどのように誘導していけば良いのか。民有林は難しいかもしれないが、何かしらの誘導をして、近隣住民達の憩いの場となれるような樹木に変えていければ非常に良いと思っている。

大森会長

多くの委員から貴重な意見をいただきありがとうございます。今回、基本方針とリーディングプロジェクト、緑の将来像を議論した。個人的には、基本理念の「彩る」がいいと思う。SSC の理念もうまくまとめられていると思う。第2次計画では基本方針が複数あったが、今回は3つに集約されたことで、言葉が足りないという意見もあった。緑をつくる、増やす、創出するという言葉を言葉として入れた方がいいのではというご意見をいただいた。なぜ緑が必要なのかを市民に伝えること、緑の意義、緑の魅力を伝えることも、計画の最初の方であった方がいいのではないかというご意見もいただいた。また、緑化義務に関する検討経緯や、基本方針とリーディングプロジェクトの関係性、現行計画の評価など、次回までに事務局で整理していただけたらと思う。協議事項は以上とさせていただきたいと思う。

4 その他

事務局

次回の第3回懇談会は、11月上旬の開催を予定している。その際、資料2のP.69の施策体系に基づいて、将来像の実現に向けて展開する施策を示していく。大森会長から、現行計画の評価の話があったが、施策レベルの評価と認識している。改定計画の施策を考えるうえで、良い取組は継続し、足りないものは追加・修正し、不要な取組は継続しないなど、庁内の関係課と調整しながら検討を進めていく。本日は示せなかったが、緑の目標水準、緑化重点地区、保全配慮地区、計画の実現に向けての部分の検討を進め、今回はパブリックコメントにかける計画案としての議論を予定している。